

# 一 巡視船砲撃する

## 竹島から巡視警言戒中

国際問題の焦点として注目されている孤島竹島で、境海上保安部巡視船が再び砲撃を受けたという事件が発生した。境海上保安部では竹島調査に同保安部所属巡視船「へくら」(四五〇ト)、「船長松浦正一氏(四三)」と舞鶴第八管区保安本部所属巡視船「おき」(四五〇ト)の二隻が十九日正午境港出港、隠岐西郷港で一泊の後二十日夕方同港から竹島に向け出港、二十一日午前六時ごろ竹島東島付近二ツの海上をしよう戒中、突然同島山頂から三発砲撃五発を巡視船「へくら」に向けて発砲したが、弾は同船から約一キロ手前の海中に落下したため事無きを得た。

三インチ砲か  
柏境海上保安部長の話  
「へくら」に同乗して二十一日午前六時ごろ約二キロ半の距離で竹島に接岸、西島の調査を行った

### 三インチ砲か

が、同島北方まで来たとき東島頂上の砲台から突然砲撃を受けた。同島を望遠鏡で見たら大体三発砲

と思われものが三門据えられていた。幸いにも弾丸は海中に落ち

このため両巡視船は調査を中止して同日夕方境港に帰港した。「へくら」は昨年九月にも同島で機銃弾を受けており今回で二度目今年に入って第八管区本部巡視船「おき」も同様砲撃を受けている。

なおこの調査結果によると竹島のうち東島にはいぜん十四、五名の警備員が認められたが新しい施設はなかつた。韓国警備員は同島に常駐していると認められる。なお両巡視船は二十二日朝無事それぞれ基地に帰還した。

たが東島には韓国旗が掲げられており、そばに十四、五人の警備員

が巡視船をみていたのが見受けられた。